

宮平観光がホテル新館

計253室 18年6月開業へ



「南の美ら花ホテルミヤヒラ」の新館「美崎館（仮称）」イメージ図（宮平観光提供）



【石垣】石垣市内でホテル事業などを手掛ける宮平観光（親盛一功社長）は来年2月、同市美崎町で運営する「南の美ら花ホテルミヤヒラ」の新館「美崎館（仮称）」を着工する。客室は全てバルコニー付きで95室、既存の宿泊棟2棟と合わせて全253室に拡大する。既存施設の改修も合わせて行

石垣「南の美ら花」

い、2018年6月のオープンを目指す。
場所は東運輸バスターミナル西側の自社敷地内で、敷地面積は約1353平方メートル。延べ床面積は約73平方メートル。鉄筋コンクリート造り9階建てで、赤瓦やサング石灰岩など「八重山らしさを感じる建築」にするという。既存施設内の

日本料理・郷土料理「ひるぎ」は年内で営業休止する。

新館は海に面した眺望を生かすほか、高品質の家具や設備による利便性の高いシティー型リゾートホテルを目指す。多言語対応の強化や無人島ツアーといったオリジナル商品開発などで、滞在型コンテンツも充実させるとしている。

総事業費は、約18億3千万円。沖縄振興開発金融公庫（10億円）と沖縄海邦銀行（5億3千万円）、琉球銀行（1億円）の協調融資を受けた。

5日の記者会見で、同公庫八重山支店の山城興司支店長は「地元資本でホテル業に携わる企業を、地元の金融機関が協調し支えることは意義深い」とし今後の発展に期待。親盛社長は「地元の支えがあつたからこそここまで来られた。100年、200年企業に向け、さらなる島の発展を目指して頑張りたい」と述べた。

石垣・宮平観光に 公庫・2地銀16億

ホテル棟建設で協調融資



「南の美ら花ホテルミヤヒラ」の新館の完成予想図（宮平観光提供）

【石垣】沖縄振興開発金融公庫八重山支店（山城興司支店長）は5日、石垣市美崎町に「南の美ら花ホテルミヤヒラ」の新館を建設する宮平観光（親盛一功社長）に建築費として県内地銀2行と計16億3千万円を協調融資すると発表した。

既存の宿泊施設と合わせ客室数は計253室となる。既存の施設は長年の運営で老朽化が進んで経営課題となっており、新館建設で事業基盤の強化を図る。親盛社長は「新館の建設でさらなる誘客に期待できる。今後も島の発展につなげていきたい」と話した。

総事業費は18億3千万円。融資の内訳は沖縄公庫10億円、海邦銀行5億3千万円、琉球銀行1億円、自己資金2億円を投じる。新館は地上9階建て鉄筋コンクリート造り、21平方

メートルの客室95室を備える。12月中旬に運営する飲食店などを解体し、来年2月に1353平方メートルの敷地で建設に着手、2018年6月の開業を目指す。